

コッコの 六次産業化物語

～第十幕・コッコソング～

「コッコファーム」という名前をみなさんに知っていただけただけ理由のひとつに、オリジナルソングがあります。今回はその誕生のヒミツに迫ります。

●「コッコ」を覚えてもらうには

「もつとコッコのことを皆さんに知ってほしい」創業者の胸には湧きあがる思いがありました。

小さな直売店を山の上に構え、観光農園としてコッコソツやっていた頃。一日の来客数が二、三人。売上は一万円にも満たない日々が続いていました。メインブランド「朝取りたまご」のヒットもあって、少しずつお客様が増え始めてはいましたが、まだまだ目標には届きそうにありません。皆さんにコッコを広く知ってもらうにはどうすればいいだろう。「そうだ、テレビCMだ」創業者は思いました。「少しずつでもテレビで見ただければきつと…」同時にこんな不安もありました。「コッコファームという名前はまだまだ知られていない。普通のCMをつくっても、きつと印象に残らない」

●不思議なコッコファーム

頭をひねって出た答えは、コッコのオリジナルソング。コッコのたまごはここが良いんですというのではなく、コッコファームの雰囲気や歌にしたも

のでした。それは創業者の「まずはコッコファームに来てもらいたい。園内の楽しさをお客様に伝えたい」という思いからでした。創業者が作詞し、「お客様と一緒に口ずさめるような曲にしたい」と、曲は地元の作曲家「矢賀部さん」にお願いしました。歌はDOYO組さんにお歌っていただくことにしました。

放映後「子どもがテレビの前で歌っています」という嬉しいお声や「何でバナナがあるの?」といったおたずねのお声もいただきました。

「不思議なコッコファーム」の不思議なコッコソングが、私たちとたくさんのお客様をつないでくれたのです。

●歌のあるたまご屋さん

コッコソングはその後も生まれましました。「たまごが先で、にわとりが後だ♪」のフレーズが耳に残る『コッコファームの大論争』や『オムレツソング』など、楽しい歌が園内に流れました。「歌のあるたまご屋さん」という珍しいお店になったコッコファーム。コッコソングのように楽しいお店であることが、私たちの願いです。



これまでの
コッコソングは
こちらの
QRコードから！



▲コッコソングといえば、DOYO組さん。いつもかわいく歌いあげてくださいます！



▲レストランに描かれている「たまご庵ソング」の歌詞とイメージイラスト。